

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397200078		
法人名	社会福祉法人 貞徳会		
事業所名	ガーデンホーム赤目(西ユニット)		
所在地	愛知県愛西市赤目町山之神80		
自己評価作成日	H31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyo_syoCd=2397200078-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成31年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周りには田園風景が広がりゆとりとした生活環境である。玄関前の石庭や花壇は、ボランティアで手入れが行われており、散歩をしながら季節ごとにきれいな花を楽しむことができる。裏にはデッキスペースを持ち、暖かい日には外へ出て野菜の手入れを行ったり、ベンチに腰かけて体操やおしゃべりをしながら過ごすこともできる。手作りのピザ釜があり、行事食やおやつ作りに利用している。近くに事業所の本部があり、慰問やボランティア行事を通じてこまめに交流を持ちながら、地域との関わりを持てるよう努めている。又、各居室にトイレ、洗面所が設置されており、プライバシーや衛生面等の配慮が確保されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの近隣に運営母体でもある特養が開設されていることで、特養で定期的に行われている「いきいきサロン」等の行事の際には、ホームからも利用者が参加する機会をつくっており、利用者の定期的な外出の機会にもつながっている。ホーム独自の取り組みも行われており、ホームの玄関から入ったホールには大きな仏壇が置かれてあり、毎朝、利用者がホールに集まる時間をつくる取り組みが行われていることで、日常生活の中での利用者の日課にもつながっている。また、ホームの職員体制についても、日常的に職員間で意見交換を行う時間をつくりながら、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。介護計画についても、職員間で利用者の支援内容を共有することができるように、日常の記録の際には介護計画の内容を確認することができるような工夫が行われて

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念と事業所の理念を目のみえる場所に張りだし、実践につなげられるように職員の意識を徹底するようにしている。	運営法人の基本理念でもある「ノーマライゼーション」から、ホームの理念をつくっており、理念をホーム内に掲示する取り組みが行われている。理念の内容を職員の目標として考えてもらう働きかけが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方の慰問が定期的であり、希望者は慰問に参加されている。又、一部の方は、いきいきサロンに参加し、地域の方との交流を図っている。	地域の方との交流については、主にホームの近隣にある母体の特養と連携しながら行われているが、ホームでも地域の方との独自の交流が行われている。また、特養で行われているサロンを通じた交流の取り組みも行われている。	ホーム内に地域の方との交流ができるスペースが確保されていたり、敷地内にピザ窯や広い庭がある利点も活かしながら、地域の方とのホーム独自の交流が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	福祉体験の生徒を受け入れ、認知症の人の理解をして頂けるように努めたり、運営推進会議の場でお話したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回運営推進会議を開催し、利用者の状況や活動内容を報告し、その際頂いたご意見等は、議事録に記載して全スタッフで周知できるように努めている。	会議の際には、地域の方の参加が得られていることで、地域に関する情報交換や交流につながっている。また、毎回の会議に市職員が出席していることで、定期的な情報交換の機会につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に参加して頂き、情報交換しあいながら、意見や助言を取り入れるように努めている。又、ホームで起きた事故についても速やかに報告し、連携に努めている。	市内の介護事業所が集まる連絡会にはホームからの参加しており、持ち回りで役員を引き受けることもある。また、関連の特養で行われている取り組み等を通じて地域包括支援センターとの情報交換等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設での身体拘束は禁止しており、夜間以外は玄関の施錠もしていない。又、定期的に身体拘束についての研修に参加したり、ミーティング等で身体拘束をしないケアについて話をしている。	身体拘束を行わない方針のもと、ホーム内は広く見えない場所も多いが、施錠を行わないように職員間で連携した支援が行われている。また、定期的な検討会議や職員研修を実施し、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	本部での勉強会に定期的に参加し、虐待防止についての理解を深めながら、防止に努めている。又、ストレスチェックが定期的に行われており、職員のストレスが理解でき早期に対処できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	機会があるごとに職員で話し合いを持ち理解するよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関する説明だけでなく家族の不安が解消できるよう十分に話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置し、多くの意見が収集できるよう努め、利用者やご家族の意見等運営推進会議の場を利用してお話して頂いている。	ホームで年2回の家族会の取り組みが行われており、家族との交流が行われている。家族からの要望等には、内容にも合わせながら、管理者と計画作成担当者で対応している。また、毎月のホーム便りには利用者毎の便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見は否定せず、できるだけ運営に反映できるように努めている。又、代表者が1日おきに職員状況の把握を行っている。	ホームでは、毎月のユニット会議を行っており、職員間で意見交換を行いながら、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による職員面談の機会がつけられており、職員の把握が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	できるだけこまめに職員との会話をする時間を持ち、やりがいが見いだせるように努めている。必要な時には、個人面談を持ち、話し合いが行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	一人ひとりの力量を把握して必要と思われる研修や勉強会に参加できるようにしている。外部研修については希望する研修に参加できることもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	事業者連絡会議にて、他の事業者と交流する機会があり、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントを行いご本人、ご家族からの要望にできる限り対応している。不安な事があれば職員間で話し合い対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前後にこまめにご家族の思いを聞き取り安心して利用者様が生活できるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	希望される支援ができるように努めている。又、職員の話し合いにより、必要なサービスがあればご家族に説明し行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活の場所であることから個々の能力に応じて出来る事を依頼し、助け合いながら生活ができるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時にご利用者の要望や訴え、ご家族にできることはお願いすることもあり、一緒にご本人を支える関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅にお連れし、昔馴染みの友人とお会いする機会を設けたりしている。	利用者の中には、関連の特養で行われているサロンに友人、知人と会う機会が得られており、馴染みの関係の継続にもつながっている。また、家族の協力も得ながら外出が行われており、行きつけの美容院を継続している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の人間関係を把握し、お互いの関係が良好となるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もご連絡があれば、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントシートを活用し、望まれている事など検討しながら、24Hシートやケアプランに挙げ、職員が情報共有できるようにしている。	毎月の利用者毎の報告を作成する等、利用者の意向等の把握が行われており、職員間で情報交換の機会がつけられている。また、ユニット会議を通じたカンファレンスを実施し、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントを行い、ご利用者が、よりよい生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	事業日誌や日々の記録を活用し、状況の変化やケアの変更の把握に努めている。24Hシートを作成し、職員が統一したケアができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の記録、ご本人、ご家族からの聞き取りを行い、できる限り分かりやすい介護計画を作成し、実施している。	介護計画を6か月で見直しを行い、利用者の状態変化に合わせた見直しが行われている。日常の記録は「iPad」を使用しているが、入力の際には介護計画の内容が分かるようにしてあり、日常のチェック及び毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	支援記録やフローノートを活用しながら、情報共有に努めている。ユニット会議でケアについての再確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	受診の送迎や付き添いなど必要に応じてニーズにそえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	希望があれば、必要なものをスーパーに買いに行ったり、図書館に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月嘱託医の往診が行われているが、希望があれば以前からのかかりつけ医の受診を継続されている方もみえる。	協力医による訪問診療やホーム職員による受診支援が行われているが、利用者の中には入居前からのかかりつけ医を継続している方もあり、家族による受診が行われている。また、関連の特養の看護師と連携しながら、医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	緊急時や状態に変化があれば、本部ナースに報告し指示を得たり、医療機関への上申も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にも介護サマリーを用意することで日常の様子やケアを伝えている。また退院についてもムンテラに参加することでご本人やご家族が安心できるよう医療との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りの支援はしていないが、ご家族との話し合いを行い、できる限りの支援に努めながら本部看護師、嘱託医に協力を得ている。	利用者や家族の意向にも対応しながら、初めてホームでの看取り支援が行われている。協力医とも連携しながら対応しており、ホームで支援可能な内容の確認が行われている。現状は、身体状態等に合わせて、関連の特養への移行支援が行われている。	ホームで看取り支援が行われたことで、職員にとって得られた経験等もある。家族の中にはホームでの対応を望む方もおられるため、今後の取り組みにつながることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時対応マニュアルがあり、いつでも見られるようになっている。本部での研修にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年3回、消防署立ち合いによる避難訓練が実施されている。昼夜、出火場所等様々な想定で、時間を測定しながらご利用者の避難誘導を実際に行っている。	年3回実施している訓練は、夜間想定や通報装置の確認等も含めてホーム単独で実施しているが、関連の特養の防災委員会にホームからも職員が参加する等、特養との連携にも取り組んでいる。また、備蓄品についても、ホームと特養で確保されている。	非常災害に関する特養との連携が行われているが、若干離れた場所にあるため、水害の際には移動ができない状況も考えられる。非常時に備えた2階のスペースの活用にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者が不快に感じない声掛けに配慮し、職員間で注意しあえるように努めている。	基本理念には、「自分の都合に合わせない」「相手本位に考えるように努めます」と記載されており、職員が日常の利用者への対応を意識する取り組みにもつなげている。職員の対応等で気になる際には、注意を促す等の取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話で、ご本人の思いを聞いたり、決定ができるよう声をかけている。ご本人の希望が何かを把握し、希望に沿うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	朝のティータイム時やご利用者と会話した時などに、その日の行事ややりたい事など確認し実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に散髪を行っている。入浴時の着替えをご本人に選んでもらい、そうでない方は一緒に選んだりもしている。髭そりをしていただくよう声掛けし、剃り残しの部分は援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	おかずの盛り付けをして頂いたり、おやつと一緒に作ったりして楽しみの時間が持てるよう支援している。	ホームでは食事内容の見直しを行っており、おかず類を外部業者から提供を受けるようにしているが、利用者もできることに参加する取り組みは継続している。季節に合わせた行事食やピザ窯を活用した食事やおやつ作り等の取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分量を毎日記録に残し、食事形態の変更や水分の種類を増やす等個々に合わせた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、できない人には介助している。必要に応じ歯科往診にて指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中はトイレ誘導を行い、オムツは使用していない。	利用者の身体状態等に合わせた排泄の記録を残しており、利用者に合わせて支援に取り組んでいる。トイレが各居室にあることで、利用者に合わせてベッドの位置等の検討を行いながら、トイレでの排泄が継続できるような取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝に牛乳を飲んで頂いたり、ヨーグルトを提供している。散歩や便座でゆっくり座る時間をとる等、できる限り自然排便を促し、出ない時には医師に相談し、下剤も服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴日は、ご利用者の状態や希望を考慮し対応している。入浴剤を使用することで、喜んで入浴されている方もみえる。	ホームでは、毎日の入浴の準備が行われていることで、利用者の希望に合わせて1日おきの方や毎日のように入浴している方もいる。ユニットによりリフトが設置されていることで、身体状態が重い方にも対応している。また、季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中も食後等休息して頂いている方もみえる。又、室温も快適に眠れるように管理している。夜間安眠できるように日中は、できるだけ活動的に生活できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの薬箱に最新の薬情が入れてあり、薬の変更があった場合には、ユニットノートに記入し、情報共有に努めている。職員に周知できるように一人ひとりの処方薬の量、効能等を書いた用紙を作成し、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人の好みに応じて、手芸や園芸等の活動に参加して頂いたり、食べたいおやつのリクエストがあれば、ご利用者と一緒手作りしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出や散歩の希望があれば、できる限り対応している。一部の方ではあるが、ご家族と共に定期的に自宅や食事に出かけられるかたもみえる。	ホーム周辺を散歩したり、関連の特養の行事に出かける等、利用者の外出の機会がつけられている。関連の特養とも連携しながら、季節に合わせた外出行事や喫茶外出等の取り組みが行われている。また、利用者の希望に合わせた外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人にはホームでお預りしているお金がある事を伝えており、一人ひとりの希望時に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、いつでも電話ができるようにしている。ご家族に手作り年賀状を出したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ユニットの扉は開放し圧迫感を感じないように配慮している。リビングや玄関は季節感を取り入れた飾りつけをしている。清掃箇所を職員で分担したり、気付いた時に清潔保持に努めている。換気やエアコンの温度にも気をつけている。	ホーム内は広く、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような配慮が行われている。玄関から入ったホールには大きな仏壇があり、毎朝の日課にもつながっている。また、季節に合わせた飾り付け等、季節感にも配慮した取り組みも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはテーブル以外にもソファを2ヶ所設置して、好きな場所で過ごせるようにしている。又、互いのユニットを行き来できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していたものを持ってきて頂いたり、ご家族の写真を飾ったり、安心して過ごして頂けるよう心がけている。	居室には、利用者や家族の意向にも合わせた様々な物の持ち込みが行われている他にも、利用者の中にはメダカを飼っている方もいる。居室に洗面台とトイレが設置されていることで、おむつ類等の利用者のプライバシーにも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室の扉の横に表札を作り、フロア入口には手作りのれん等を使用している。トイレの場所がわかるように掲示したり、手すりや介護用具を使用し、できるだけ安全に自立した生活が送れるようにしている。		